

ケアセンターけやき 櫻井 友貴(理学療法士／訪問看護)

功 績 業務効率の向上のために導入した訪問看護ステーションの業務ソフト(iBow)ならびにLINE Worksの機能を活かし当事業所に適した形で活用するためにはシステム作りと操作の習熟が急務でした。その際、櫻井は先頭に立ち、マニュアル作成やより効率的に利用できるようなシステム作り、操作方法の説明会を開催してくれました。電子機器が苦手な利用に不安を抱え消極的だった職員からも「楽になった」「変更して良かった」との声が聞かれています。また部署を超え、事務との連携も図り正確で簡便なマニュアルを作成してくれました。ICT導入の目的を果たせ、職員の残業や精神的な不安や負担感の軽減を図り、職員が本来の専門性を活かせるような環境作りに大きく貢献した功績。

推 薦 者 理学療法士・矢澤拓也(訪問看護リーダー)

推 薦 理 由 業務の効率化を図るためのICT導入によるトラブルや職員の精神的な不安に対し、部署を超え当事業所に合った形のマニュアルや運用システムを作成し、職員の不安を解消しながら計画的に進めて頂いたことで、職員が各々の本来の専門性を活かし地域に対しサービス提供を行える体制を整えたことは、事業所への貢献は大変大きく、理事長賞に推薦したいと思います。

内 容

けやき訪問看護ステーションでは、手書きによる日々の記録や独自のExcelを活用した書類業務(報告書など)・実績確認を行っていた事で時間を要し、ミスや職員の業務負担も大きく、残業の大きな要因となっていました。

また外部からの業務連絡においてもタイムリーに行えず、連絡が行き届かなかつたり、連絡記録が残らないなどのミスも多く発生していました。その為、業務効率の向上の為、iPadを導入して頂きiBowやLINE Worksを用いて業務の効率化を図りました。しかし、業務効率の向上と言う目的を果たすには、職員全員がソフト機能を活かし利用できることが急務でした。

その際に当事業所にはスマートフォンも利用したこともなく電子機器の操作に不慣れな為、導入に不安を強く感じる職員が多く居ました。その為、当事業所に合った形での操作説明マニュアルや運用システム作りが急務でした。その際に櫻井は先頭に立ち業者と積極的に連絡をし操作を熟知し操作説明マニュアルや計画的に操作を習熟できる運用システムを構築してくれました。

また運用する中で現れた職員から出た疑問点なども集約し業者とともに質問会を開催することやミーティング時などに操作説明会を開催して頂き職員が安心してソフトを利用できる状態を築いてくれました。請求に関しては事務との連携も重要である中、お互いがより効率良く、そしてミスや負担の少ない運用方法を築き、部署を超えた連携も図り取り組んでくれました。

移行後に職員にアンケートを取ると「業務が楽になった」という声が多く、負担感が10段階評価で平均9という結果も得られ、事務職員も大きなシステムの変更でトラブルや不安を大きく抱えていましたがスムーズな移行が出来たという声も聞かれています。操作方法の伝達や運用マニュアルによりICT導入の目的が果たせ、職員の残業や精神的な不安や負担感の軽減にも大きく貢献されました。